

I 公1：見本市・展示会事業

1 主催・共催事業

(1) 西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与することを目的に、国や地域の行政機関等と連携し、各種の見本市・展示会等を企画・開催している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）の影響が継続したものの、感染症防止対策を施すとともに、オンライン等の開催手法を取り入れながら、見本市・展示会事業を実施した。

◆当協会が主催・共催した主な見本市・展示会 ()内は令和2年度実績

西日本製造技術イノベーション2021			52社・団体 (中止)
第47回ふくおか産業技術振興展			23社・団体 (中止)
エコテクノ2021 ～地球環境ソリューション展～	6月30日～7月2日	8,568人 (オンライン 7,955ビュー)	23社・団体 (オンライン 37社)
エコテクノ2021 ～エネルギー先端技術展～			29社・団体 (オンライン 49社)
エコ・ベンチャー・メッセ2021 & アカデミックコーナー			29社・団体 (中止)
中小企業テクノフェア in 九州2021			53社・団体 (オンライン 30社)
第43回西日本陶磁器フェスタ	9月16日～20日	31,889人(30,765人)	210社・団体 (149社・団体)
P.P.C.2021 第23回西日本国際福祉機器展 (ハイブリッド)	11月18日～20日 (+オンライン開催)	2,631人 オンライン 8,841ビュー (オンライン 22,342ビュー)	53社・団体 オンライン 54社・団体 (オンライン 119社・団体)
合 計	開催8事業 +オンライン1事業 (開催1事業 +オンライン3事業)	43,088人 オンライン 8,841ビュー (30,765人 オンライン 30,297ビュー)	開催 472社・団体 オンライン 54社・団体 (開催 149社・団体 オンライン 235社・団体)



第43回西日本陶磁器フェスタ



福祉機器展会場内ツアー



主催団体担当者発表会

【外部環境が変化中での展示会開催に向けた主な取り組み】

ア 産業系展示会の集約とマーケティングオートメーションの導入

新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、県外からの展示会への来場が見通せない中、一部事業を集約するなど、効率的な展示会運営に取り組んだ。他にも、デジタル技術を活用することで来場者の集客に努めた。

○ 既存展示会の集約

「西日本製造技術イノベーション」「ふくおか産業技術振興展」「エコテクノ」「エコ・ベンチャー・メッセ」「中小企業テクノフェア in 九州」を集約した、「課題解決EXPO 2021」を開催した。開催にあたっては、マーケティングオートメーションを利用して、事前マッチングを行うなど、新技術を利用した取り組みを行った。

○ 西日本陶磁器フェスタの開催

全国の陶磁器販売イベントが中止・延期される中で、販売機会の確保を目的として、西日本陶磁器フェスタを開催し、北海道から鹿児島まで全国164の窯元が出展し、良質な手づくり作品を広く紹介することで、地域の賑わいづくりと産業振興に取り組んだ。

イ ウィズコロナにおける展示会のあり方について

ウィズコロナにおける展示会のあり方を模索し、オンライン技術を活用した展示会開催を進めた。

○ セミナーのオンライン開催

「西日本製造技術イノベーション」においては、セミナー講師のオンライン登壇や、YouTubeを活用したセミナー同時配信等、コロナ前にはなかった情報発信を実現した。「エコテクノ」では、来場者の関心を事前に高めるため、展示会1か月前にセミナーを3テーマ、プレゼン1テーマをホームページにて配信した。

○ ビジネスマッチングの最大化の取り組み

「中小企業テクノフェア in 九州」においては、「シーズ説明会」「提案スキルアップ研修」をオンラインで開催することにより、遠方の出展社の参加促進や、利便性の向上を図った。また、出展社のプレゼンテーションを会場内モニターで放映することで、来場者の出展者ブース訪問を促進した。また、展示会に来場した受注企業と遠隔地の発注企業を結ぶ、リアルとオンラインのハイブリッド型商談会「製造技術マッチングフェア」を開催した。

(2) 主催・共催事業と並行して関連するセミナー、シンポジウムを開催した。
(53テーマ、参加者数2,130人)

2 関係団体との連携事業

(1) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、福岡県、北九州市や大学、関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

(2) 国際化の推進

ア 韓国BEXCO（釜山国際展示場）とのMOU事業

MOUを締結しているBEXCOと良質な友好関係を構築してきたが、相互交流が難しくなっているため、状況が改善されるのを待ちつつ、今後の取り組みを検討する。

イ 展示会の国際化

コロナ禍により、海外との往来ができない中、オンラインを活用して海外との取引拡大の機会を提供することに注力した。

(西日本国際福祉機器展、エコテクノにおける海外出展者数 合計4社【全て韓国】)

(3) 新たな価値創造を目指した見本市運営

コロナ禍でライフスタイルが大きく変化中、ニーズに応じた展示会の開発を進めるため、既存の展示会に付帯する形で小規模な展示会の企画検討を行った。

また、見本市・展示会運営の将来を担う若手担当者のスキルアップを図るため、九州で公的な展示会を主催する団体と定期的な発表交流会を開催した。

Ⅱ 公1：会議・大会等

1 誘致・支援事業

(1) 北九州市では、日本政府観光局(JNTO)の企画事業への積極的な参加による連携強化や、地元及び首都圏等の学会・大会等のキーパーソンとのネットワークの深化・拡大への取り組みを進め、グローバルMICE推進協議会との連携による海外セールス、商談会への参加等を行い、積極的な誘致活動を推進した。コロナ禍で、新規の案件開拓が困難な中、JNTOおよび日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー(JCCB)主催の「国際MICEエキスポ(IME)」等各種オンライン商談会を積極的に活用し、学会・大会等のキーパーソンへ向け本市で会議・大会を開催する魅力、メリット等を発信し誘致を行った。

これらの誘致活動および開催助成金の効果的な活用の成果として、令和4年度以降に合計170件(令和4年3月31日現在)のコンベンションが予定されている。

なお、観光庁作成の「MICE開催による経済波及効果測定モデル」によれば、令和3年度の当協会が誘致し開催した案件による経済波及効果(間接2次波及効果、雇用効果を含む)の推計値は20億7,280万円であった。

◆ 年度別開催件数の推移 (単位：件)

区分	国際	全国	その他	合計
R3年度	1	49	61	111
R2年度	0	30	39	69
R1年度	127	73	116	316

◆ 年度別参加者数の推移 (単位：人)

区分	国際	全国	その他	合計
R3年度	560	22,980	11,535	35,075
R2年度	0	12,077	5,088	17,165
R1年度	72,088	75,745	50,288	198,121

◆ 令和3年度開催の主な会議・大会

規模	名称	開催時期	会場	参加人数 (オンライン(外数))	海外参加国数 (オンライン(外数))
国際	Global Offshore Wind Summit-Japan2021	R3年10月	北九州国際会議場	560人 (340人)	4カ国 (10カ国)
全国	(社)茶道裏千家淡交会北九州支部創立80周年・青年部創立55周年記念大会	R3年4月	リガロヤルホテル小倉	1,150人	
	第46回日本小児眼科学会総会	R3年6月	北九州国際会議場	150人 (970人)	
	第13回日本創傷外科学会・学術集会	R3年7月	北九州国際会議場	662人 (538人)	
	第69回日本PTA全国研究大会北九州大会 第66回日本PTA九州ブロック研究大会北九州大会	R3年8月	北九州国際会議場	188人 (5,833人)	
	第31回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会	R3年10月	北九州国際会議場	161人 (1,429人)	
	第20回日本睡眠歯科学会総会・学術集会	R3年11月	北九州国際会議場	636人 (370人)	(2カ国)
	第4回IgG4関連疾患国際シンポジウム 第13回日本IgG4関連疾患学会	R3年12月	北九州国際会議場	210人 (330人)	(8カ国)
	第34回日本外科感染症学会総会学術集会	R3年12月	北九州国際会議場	640人 (769人)	(5カ国)

規模	名称	開催時期	会場	参加人数 (オンライン(外数))	海外オンライン 参加国数
全国	電気学会 誘電・絶縁材料/放電・プラズマ・パルスパワー/高電圧合同研究会	R4年1月	北九州国際会議場	106人 (114人)	(4カ国)
	International Conference and Workshop-Designing Post-Pandemic University Campus-	R4年3月	北九州学術研究都市	195人 (552人)	(6ヶ国)
	第3回ニューロモルフィック AI ハードウェア国際シンポジウム	R4年3月	ルミアホテル門司港	240人 (210人)	(13カ国)
	The 3rd International Conference of iSMART:Urban regeneration in post-pandemic era	R4年3月	北九州市立大学 ひびきのキャンパス	252人 (211人)	(3カ国)
	International Symposium on Applied informatics Innovations (ISAI2022)	R4年3月	北九州国際会議場	54人 (90人)	(2カ国)
九州 西日本	第7回福岡県診療放射線技師会学術大会	R3年6月	北九州国際会議場	230人 (442人)	
	みちづくし in 北九州 2020	R3年11月	AIM	486人 (190人)	
	第10回日本語聴覚士会九州地区学術集会福岡大会	R4年1月	北九州国際会議場	156人 (890人)	

※会議規模については、現地参加者により判断した。

(2) 主な取り組み

○誘致営業

従来の誘致活動に加え、関係機関との連携や人的ネットワークの維持にオンラインを取り入れた。

コロナ禍においては、先行きが不透明で、特に国際会議は開催地や開催方法の決定が困難な状況ではあるが、いくつかの案件が誘致に繋がった。

○スポーツ誘致

積極的な誘致活動を行い、コロナ禍の中、約70の国・地域の選手が参加し、100%有観客で行われ高い評価を得た、2021世界体操・新体操選手権北九州大会をはじめ、第30回東アジアホープス大会、JOCジュニアオリンピックカップ第41回全日本ジュニアバドミントン選手権大会、第49回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会等、57件、延参加人員4.1万人のスポーツイベントを北九州市に誘致することができた。今後は昨今注目され競技人口が増えているeスポーツにも範囲を広げ、誘致活動を行っていく。

○グローバルMICEの推進強化

国際会議協会ICCAをはじめとした、これまでに培ってきた国内外の関係団体とのネットワークを活用しながら、国際会議誘致やオンラインMICE商談会への参加など積極的な事業展開に取り組んだ。

令和3年度も、新型コロナウイルスの影響により、各種現地商談会が開催されない状況が続いたが、オンラインで開催された「国際MICEエキスポ(IME)」に参加し、国内外のキーパーソンや学会主催者と商談を実施した。

○ローカルホストとの連携強化

大学等との「コンベンション誘致・開催に関する連携協定」に基づき各大学の教授会でMICE説明会を開催し、連携強化を行った。

OSDGsを意識した事業推進

国際会議ではSDGsに対する取り組みが開催地選びの重要ポイントとされることから、再生可能素材を使った誘致営業用PRグッズを作成するなど、できる限りSDGsを念頭に置いた取り組みを行った。

2 主催・共催事業

国際会議場等を活用し、幅広い年齢層を対象に各種イベントを企画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和3年度は前年に引き続き、中止、または誌上開催とした。

◆イベント・大会等の企画、開催（主催・共催） ※（ ）内は令和2年度実績

事業名	開催期日	入場者数
小倉まちづくりミーティング泡盛ナイトinくら	中止	-人 (-人)
第27回北九州将棋フェスティバル	中止	-人 (-人)
第21回全国俳句大会in北九州	誌上開催	806人 (853人)

※俳句大会の入場者数は事前投句応募者数

Ⅲ 公1・収1：貸館利用者の誘致・営業強化

1 営業体制の強化

(1) リピーターの安定及び効率的稼働への取り組み

既存利用者の催事の延期や中止について、利用者のニーズに沿った日程の提案を行った。また、過去の利用者や潜在的な利用者の掘り起こしを目的に、「エコテクノ」の来場者向けダイレクトメールに会場利用促進のチラシを同封し、会場利用の促進に取り組んだ。

(2) 新規利用者の開拓

テレビ局や音楽プロモーターとの連携を深め、1件の新規コンサートの誘致に成功した。各種試験については、感染対策が施された広い会場のニーズが高まったことなどから、5件の試験催事が開催された。その他にもランドセル展示会や自衛隊任期制隊員向けの就職説明会など今後も継続して利用が見込める催事を開拓するとともに、新館・本館を同時利用する大規模催事も獲得することができた。

(3) 主催者等への各種支援の実施

新規及び大規模利用主催者に対して、集客広報や代理申請手続きなどの各種支援をするとともに、新型コロナウイルスによる施設の利用状況の変化に伴い、安心・安全な会場利用の再開を促すため、サーキュレーターを追加導入に加え、空気消臭除菌装置を新規導入するなど環境整備に努めた。

◆令和3年度 新規展示会・見本市等の誘致実績

催事名	催事名
情報処理技術者試験/情報処理安全確保支援士試験 (R3年4月)	世界新体操2021 (R3年10月)
合同ランドセル展示会2021 (R3年6月)	2級管工事施工管理技士国家試験 (R3年11月)
自衛隊任期制隊員合同企業説明会 (R3年8月)	多肉フェスティバル(多肉食植物の販売ほか) (R3年12月)
櫻坂46 全国アリーナツアー2021 (R3年9月)	弘学館中学校・高等学校入学試験 (R4年1月)
伝統文化イベント(ステージ・ワークショップ) (R3年9月)	ノートルダム清心女子大学入学試験 (R4年2月)
情報処理技術者試験/情報処理安全確保支援士試験 (R3年10月)	フォーデイズ春2022 in 福岡 (R4年3月)

2 「営業推進本部」の取り組み

コロナ禍において、施設稼働に関する最新情報の共有を徹底するため「営業推進本部」の機能強化を推進し、会場の利用促進・サービス向上に努めた。特に、閑散期における集客にぎわいイベントについては、前年度、新型コロナの影響で中止となった「いきものキングダム in 北九州」の開催などの成果を生んだ。また、ミクニワールドスタジアム北九州との連携についても引き続き取り組み、次年度の事業実施に向けた情報収集に努めた。

◆令和3年度 閑散期対策イベント等

催事名	会期	入場者数
いきものキングダム in 北九州 2021	R3年7月22-8月22日	41,263人
トミカ博 in KITAKYUSHU 2021	R3年7月16日-21日	中止

<参考> 令和3年度 北九州市のMICE開催実績

区分	件数	参加人数	経済波及効果(間接・雇用効果を含む)
会議・大会等	111件	35,075名	2,073百万円
見本市・展示会・イベント	6件	86,562名	4,216百万円
合計	117件	121,637名	6,289百万円

※開催実績の対象は、以下の2つの条件を満たすもの。ただし、展示即売など主に営業目的とするものは除く。

①北九州市MICE誘致推進本部事務局（北九州市産業経済局及び当協会）が誘致・開催支援・実施したもの。

②北九州市地域以上を参加規模とするもの。

※経済波及効果は、観光庁の「MICE開催による経済波及効果測定モデル」により算定。

Ⅳ 公1・収1：広報・宣伝、地域連携

1 広報、宣伝

ホームページでのイベント情報・施設紹介、協会主催事業やコンベンション誘致に関する情報の提供を行ったほか、「北九州観光イベントだより」を新たに発行し、集客に活用した。

また、北九州市の玄関口であるJR小倉駅では、令和3年度より新幹線口ペDESTリアンデッキに設置されたデジタルサイネージを用いて施設PRを行った。

2 地域連携

小倉駅新幹線ロエリアの地域振興団体と共同で、交流イベントや地域清掃活動等の実施、「こくらマップ」のMICE参加者への配布等、地域の活性化・にぎわいづくりに取り組んだ。

また、JR主要駅に近接する施設の特徴を生かすため、JR九州・JR西日本と連携し、主催事業等のPRを行った。

V 公・収1：管理・運営

新型コロナの影響により、利用件数、施設稼働率、施設利用者数はコロナ前と比較すると依然として大きく減少しているものの、徐々に回復の兆しがみられた。

このような状況の中、国及び県のガイドラインを遵守し、安心・安全な施設運営に努めた。

1 お客様満足度の向上

(1) サービスの向上

利用者に対して、そのニーズを的確にくみ取り、丁寧な対応を心掛けた。特に新型コロナ感染拡大防止の観点から、ネットワーク機器をオンライン・ハイブリッド開催に適したものに更新し、また、感染対策用機器の無料貸し出しも継続実施した。さらに、展示場新館のトイレショールーム化や会議場の抗菌・抗ウイルス対策等、利用者満足度向上に向けた取り組みを行った。

(2) 職員の資質・能力の向上

職場におけるQC活動を通じ、利用者への接遇マナーについて職員相互の情報共有を図ることで顧客満足度を高めることに努めた。また、オンライン研修を積極的に取り入れ、「国際会議場施設協議会」「全国展示場連絡協議会」などの外部研修にも参加した。その他、北九州市主催の建築物の日常点検に関する研修も受講し、施設管理者としての見識を深めた。

2 管理業務の効率化

施設の予約受付や利用調整等をスムーズに行うため、プロジェクトチームを組み、「施設予約管理システム」の開発を進めた。

3 災害甚大化に対応する防災体制の検討

大規模な災害発生等に備え、緊急時の人員配置や、連絡体制を構築するとともに、避難・救護等の訓練を行った。

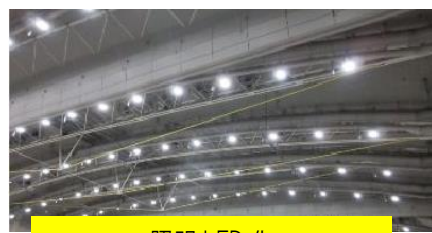
4 施設の改修等

施設の老朽化対策や利便性・安全性の向上のため、施設設備の改修更新等を行った。

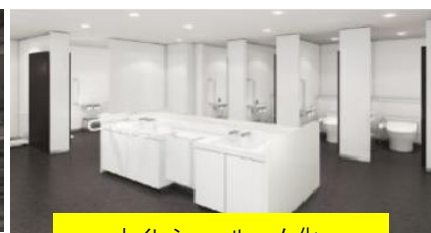
* 展示場本館：屋根防水改修工事等

* 展示場新館：照明LED化工事、トイレのショールーム化工事、ロビー椅子座面を小倉織に張替

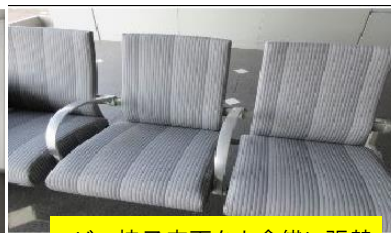
* 国際会議場：高層階ライトアップ照明更新工事及び、イベントホール小倉織タペストリーの設置等



照明LED化



トイレショールーム化



ロビー椅子座面を小倉織に張替

5 施設の稼働率等

◆西日本総合展示場本館の利用状況

区分	件数(件)	稼働日数(日)	稼働率(%)	入場者数(万人)
R3年度	24	333	91.5	17
R2年度	22	119	34.9	8
R1年度	61	308	88.0	27

◆西日本総合展示場新館の利用状況

区分	件数(件)	稼働日数(日)	稼働率(%)	入場者数(万人)
R3年度	121	233	65.6	25
R2年度	88	161	46.1	12
R1年度	171	274	78.3	57

◆北九州国際会議場の利用状況

区分	件数(件)	稼働日数(日)	稼働率(%)	入場者数(万人)
R3年度	471	301	83.8	3
R2年度	338	226	61.9	2
R1年度	536	323	91.0	7

6 指定管理

指定管理期間の3年目であった令和3年度は、新型コロナの感染拡大に伴う緊急事態宣言等の発出による施設の休館・時短措置やイベント開催制限、利用者の開催自粛等があり、指定管理計画に掲げた目標（来場者数（展示場・会議場）96万人、コンベンション誘致件数250件など）の達成に至らなかった（来場者数45万人、コンベンション誘致件数161件など）。

令和4年度についても、新型コロナの収束時期が見通せない状況下にあるが、計画的・組織的な取り組みを進める。

VI 公2：観光客の誘致及び滞在化の促進

新型コロナの感染拡大は、観光分野にも大きな影響を及ぼしたが、コロナ禍にあっても様々な支援事業やPR活動等を継続して実施した。

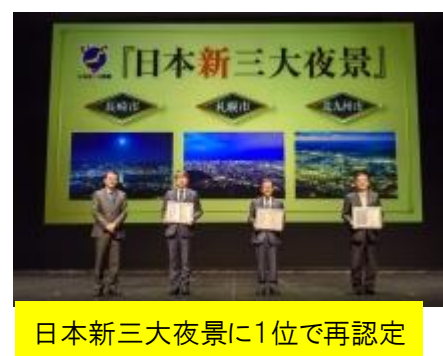
1 観光客誘客事業・滞在化促進事業

北九州市及び観光関連企業で組織する「北九州市国内観光客等誘致促進協議会」等を通じ、本市の観光資源や新しい観光情報等のPRを行った。その他、北九州市の緊急経済対策関連事業に係る助成金等の支給窓口業務を通じて、観光関連事業者への支援を行った。

【北九州市国内観光客等誘致促進協議会事業】

戦国パーク 2022(熊本・3月19日～20日)や羽田空港イベント(3月26～27日)へ出展し、観光PRを行った。

日本新三大夜景都市への再選出を目指し、様々な情報媒体を通じたPRを強化した結果、3月25日に札幌市で開催された「夜景サミット」において、「北九州市の夜景」が前回3位から躍進し、ランキング第1位で再認定された。



日本新三大夜景に1位で再認定

【緊急経済対策関連事業】

新型コロナの感染拡大を受けて、緊急経済対策関連事業を実施した。

事業名	利用実績	事業名	利用実績
北九州魅力再発見キャンペーン	販売実績: 2,653枚 利用実績: 53,769名	テレワーク等推進プラン助成	延べ 25,106名
北九州市宿泊モニターキャンペーン	延べ 25,287名	北九州魅力満喫パスポート	販売実績: 62,782枚 利用実績: 240,887名
北九州市医療・介護施設従事者宿泊支援	延べ 255名	観光客誘致旅行商品助成	宿泊 96名 立寄 687名
地元の逸品販売支援事業	配送件数: 15,678件 販売数: 16,128点		

【北九州市国際観光推進協議会事業】

オンライン・リアル事業を通じ外国人観光客の誘致を図った。

- ・海外向けオンライン商談会(延べ3回参加)
- ・香港・韓国でのオンラインイベントでのPR動画配信など
- ・EXPAT EXPO TOKYO 2021で外国人駐在員へPR
- ・来北した韓国・タイのインフルエンサー等に向けたPR

【北九州産業観光センター実行委員会事業】

産業観光ガイド、工場夜景ナビゲーター、世界遺産ガイドのスキルアップ及び知識習得のため、座学や視察等による育成研修を実施した。

2 修学旅行誘致助成事業

修学旅行を担当する旅行代理店へ向けて、市内宿泊を伴う旅行、市内での食事・有料施設利用を伴う旅行等に対する助成事業についてPRを行った。

【助成実績】 延べ76校、9,273名
(R2実績 延べ57校、4,770名)

VII 公2：観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

企画広報宣伝・情報収集調査事業

機関誌・観光関連書籍の発行やホームページ等の運営により、広報宣伝と観光情報の収集・調査に努めた。

(1) 機関誌の発行

季刊情報紙「北九州観光イベントだより」の新規発行
夏号(7月1日)、秋号(10月1日)、冬号(1月1日)、春号(4月1日)、各10,000部

(2) ホームページ等の運営

コロナ禍においても、収束時の観光客誘客につながるよう、ホームページや各種SNSでの投稿を数多く行い、国内外に向けて広く観光PRを行った。

① ぐるリッチ!北Q州	アクセス数	1,153,451件	(802,105件)
② フェイスブック	いいね!件数	11,322件	(10,692件)
③ Instagram	フォロワー数	15,070件	(9,662件)
④ Twitter	フォロワー数	5,209件	(3,880件)

()内は前年実績

(3) 観光関連書籍の発行

北九州観光カレンダー 6,000部(11月1日発行)

VIII 公2：観光に関する人材の育成及び啓発

1 百万にこここホスピタリティ運動

新型コロナの影響により、前年に引き続き、協賛金募集を見送ったため、予定していた各観光事業者の海外の観光客のおもてなし活動の取組紹介や、観光事業者のスキルアップに向けたセミナーの開催及び観光用マップの制作などの実施を中止した。

2 観光案内ボランティアの養成及び派遣

(1) 観光案内ボランティア制度運営

例年、旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区等でのガイド活動や、イベント、祭りに合わせて設置した特設観光案内所でのガイド活動や、ガイドのレベル向上のため観光案内ボランティア研修会を開催しているが、令和3年度は前年に引き続き、新型コロナの影響により、ガイド活動の一時休止や研修会の中止を余儀なくされた。

① 旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区をはじめとするガイド活動

- ・ガイド件数 282件(前年度実績: 88件)
- ・ガイド人数 3,505名(前年度実績: 861名)
- ・活動者数 417名(前年度実績: 129名)

② イベント、祭りにあわせて設置した特設観光案内所でのガイド活動及び観光案内ボランティア研修会

- ・新型コロナの影響により、全て中止

(2) 北九州観光市民大学

期間 11月4日～2月3日 計13回
受講者数 23名(うち、北九州市観光案内ボランティア登録者7名)

Ⅹ 公2：特産品の紹介・宣伝

国際会議場「Sea Lounge」に地場産品を実際に展示した上で、商品カタログ、通信販売のQRコードや申込書を設置し、イベント関係者へ地場産品のPRを行った。あわせて、オンライン会議用の開催記念品として北九州ならではの地酒とおつまみの「宅飲みセット」を新たに企画し、新規顧客の創出を図った。また、新門司～横須賀に新規就航したフェリーのイベント用に北九州の特産品を販売し関東地方においても市内特産品のPRを行った。

(1) ホームページでの紹介、販売（オンラインショップ）等

- ・北九州観光市場 発注件数：535件（前年実績377件）
- ・Yahoo!ショッピング 発注件数：357件（前年実績115件）
- ・ふるさと北九州市応援寄附金返礼品 受注件数：868件（前年実績959件）

(2) 大規模イベント会場での臨時売店設置

新型コロナの影響で例年参加していた殆どの催事開催が見送られたが、時期的に開催が実現した競輪祭に参加し地場産品をPRした。

Ⅹ 公2・収2：観光に関する施設の管理運営

1 観光案内所運營業務（公益目的事業）

【北九州市観光案内所運営協議会】

北九州市、JR九州、西鉄バス北九州、北九州エアターミナルと北九州市観光案内所運営協議会を組織し、官民一体となり市内3箇所の観光案内所におけるサービス強化を図った。

令和3年度は、北九州市総合観光案内所（JR小倉駅内）のリニューアルを行った。また、新型コロナ対策を徹底した上で来所者サービスに努めた。

<来所者数>

- ・北九州市総合観光案内所：31,476人（前年実績：24,502人）
- ・門司港駅観光案内所：4,976人（前年実績：4,835人）
- ・北九州空港総合観光案内所：7,432人（前年実績：5,031人）

【北九州産業観光センター】

北九州産業観光センター（北九州市、商工会議所、当協会）において、産業観光協力企業と工場見学等に関する調整を行うとともに、毎年産業観光ツアー及び工場夜景クルーズへのガイド・ナビゲーターの派遣等を行ったが、令和3年度も前年に引き続き、新型コロナの影響により、視察やツアー等の多くが中止となった。

<参加状況>

- ・産業観光視察 0件 0名（前年実績：0件 0名）
- ・工場夜景ツアー（クルーズ、バス） 2件 85名（前年実績：1件 20名）
- ・工場夜景定期クルーズ 34件 775名（前年実績：9件 231名）

2 土産品・特産品売店の管理運営（収益目的事業）

門司港レトロ地区における主力のお土産センターとして「北九州おみやげ館」を運営している。令和3年度は、新型コロナによる緊急事態宣言の発出により3度休業を行ったが、営業再開に際して、ガイドラインに基づき、パーテーションや消毒液の設置、営業時間の短縮等の感染拡大防止対策を行った。また、北九州市や商工会議所が地域消費喚起策として発行した、地域共通クーポンの取り扱い店舗となり、販促に努めた。

さらに、運営を受託しているTOTOミュージアムショップについても、「北九州おみやげ館」同様の対応を取り、産業観光と連携した土産品の紹介・販売を行った。

(1) 土産品、特産品売店の運営

- ・北九州おみやげ館
- ・TOTOミュージアムショップ

(2) 門司港レトロ駐車場の管理運営

- ・利用台数（乗用車） 45,463台
（前年実績：36,746台）



北九州おみやげ館

3 小倉駅イベント広場等の管理運営（収益目的事業） — JAM広場、JAMビジョン —

JR小倉駅3階在来線改札口前のJAM広場について、新型コロナ関連のモニタリング検査や、観光物産展などへの貸し出しを行った。また、同場所において、大型映像装置「JAMビジョン」で、市政情報・啓発CMや観光情報、広告CM等の放映を行った。



JAM広場・JAMビジョン